

緊急放射線治療の実態と課題についての調査 担当:小宮山、齋藤

- 対象期間 2019年1月1日～2019年12月31日
- 緊急放射線治療の定義
 - Oncologic emergencyに対して、紹介後12時間以内に治療を施行
- 項目
 - 年齢、性別、対応時間(時間内/時間外)、曜日、疾患、紹介元(自施設/他施設)、受診後治療までの時間、照射法、線量分割、治療効果
 - 対応スタッフ、対応時間(医師、診療放射線技師、医学物理士、看護師)
 - 時間外の場合の報酬、代休など
 - 問題点、困っている点など

1

方法と結果の概要

- リニアックを有している国内834施設にアンケート調査
- 111施設から回答あり
- 緊急放射線治療の施行: 87施設
- 症例数:629例 施設症例数:1-49 (中央値5)例
- 診断名:脊髄圧迫 374例, 脳転移 92例, 上大静脈症候群 31例等
- 治療までの時間:20-600 (中央値240)分
- 治療効果: 症状軽減 344例, 症状不変(進行無し) 205例
症状進行・増悪 74例, 不明 6例

2

解釈と提言

本邦における緊急放射線治療

- 私立病院から大学病院まで施設形態を問わず施行されていた。
- 症例の多くに効果が認められており、oncologic emergencyに対して緊急放射線治療を行うことは臨床的に意義があると考えられた。
- Oncologic emergencyの病態となる前に紹介されることが望ましいが、緊急放射線治療が必要とされ、治療により利益を得られる患者が多く存在する
- より多くの施設で、適切に緊急放射線治療が行われる体制を整備する必要が考えられる。

3